

マネキグサ	<i>Loxocalyx ambiguus</i> (Makino) Makino	準絶滅危惧
(環境省:準絶滅危惧)		シソ科
選定理由	分布域の一部において生育の条件が悪化しており、種の存続への圧迫が強まっていると判断される。	写真(大塚英樹)
形態の特徴	細い地下茎があり、茎は直立して40-70cmになる多年草。中部で分枝することが多い。葉は疎らにつき、下部のものは心形、中部のものは三角状広卵形、上部のものは卵形。花期は8-9月。葉腋に、暗紅紫色で、長さ18-20mmの花を1-3個ずつつける。	
生態的特徴	山地の木陰に生える。	
分布状況	本州(神奈川県以西)~九州に分布する。県内では県南の中部・西部に分布し、県南の東部、県北の東部にも生育域がある。	
減少要因	本種の分布域は県北・県南のかなり広い地域に分散しているが、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要のある場合は、生育場所を特定できることのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良